

## 令和4年度決算の概況

### (1) 総括事項

令和4年度においては、「岡山市下水道事業経営計画2016」に基づき、下水道事業の持続的な運営を図りながら、快適で安全なまちづくりに貢献しました。

特に浸水対策については、過去の浸水被害を踏まえ、「岡山市浸水対策の推進に関する条例」に基づき、雨水幹線やポンプ場などのハード整備を進めるとともに、事業者への開発行為等に伴う雨水流出抑制施設設置の助成、止水板設置補助制度などにより、市民、事業者と連携した総合的な浸水対策を進めています。

引き続き、平成30年7月豪雨による浸水被害の大きかった地区への重点的な浸水対策に取り組むとともに、未普及対策や耐震・長寿命化対策などについても効率的、計画的に実施します。

### ア 下水道による汚水処理の状況

事 項	令和4年度	令和3年度	増 減	対前年度比 (%)
処理区域内人口 (人)	488,345	487,235	1,110	100.2%
水洗化戸数 (戸)	167,514	165,860	1,654	101.0%
年間有収水量 (千m <sup>3</sup> )	52,624	53,044	△ 420	99.2%
普及率 (%) ※1	68.8	68.4	0.4	—

※1 以外は農業集落排水事業を含む。

### イ 建設改良事業

#### a 浸水対策

浸水被害の軽減を図るため、平成30年度に着手した浦安排水区の浦安11号幹線(1工区)雨水管築造工事のうち、一次覆工が完了し、二次覆工に現場着手しました。今保排水区においては、令和5年度暫定供用開始に向け、今保・白石ポンプ場の整備に取り組みました。

豪雨に対する初期対応の迅速化を図るため、西大寺地区等のゲートの遠隔操作化に継続的に取り組みました。

#### b 未普及対策

笹ヶ瀬右岸幹線及び吉備津・檜津・津高・庭瀬地区など旭川以西の児島湖流域下水道関連処理区などの整備や、牟佐幹線及び桑野・今在家・東平島・西大寺浜地区など旭川以東の岡東及び吉井川処理区の整備に取り組みました。

#### c 耐震化・長寿命化対策

耐震化の取り組みとして、兼基ポンプ場、平田ポンプ場など施設の耐震診断を実施するとともに、長寿命化対策として、旭西排水センター、金岡ポンプ場及び岡南ポンプ場などの改築工事を継続して進めています。

また、老朽化した管きょの更生工事、耐震化の基本計画に基づき重要な幹線管きょの詳細設計、更生工事に取り組みました。

#### ウ 維持管理

処理場やポンプ場においては、日常の管理の中でコストを意識した運転や、能動的（季節別）管理運転のような下水道の付加価値を高める運転を行うとともに、点検や整備、修繕を計画的に行いました。管きょについても、計画的に点検・調査を行うとともに、清掃や修繕を行いました。

#### エ その他の取り組み

南海トラフ巨大地震の発生を想定した下水道BCP訓練（8回目）を令和5年1月に実施しました。シナリオ（発災6時間後・3日後等）を設定し、プレーヤーの行動に応じた状況

付与を随時追加して与えることで、より実践に近い訓練となりました。下水道管や下水処理施設の現地調査訓練も行い、災害対応能力の向上に努めました。

また、下水道河川局の取組や下水道の魅力を手感的にわかりやすく発信し、下水道や河川に対する理解を深めてもらうため、岡山市下水道河川局 Instagram による情報発信を始めました。令和5年3月末時点で、97件の記事を投稿し、フォロワー数は232人となりました。

## オ 財政状況

令和4年度の財政状況については、収益的収支では、事業収益19,179,993千円に対し、事業費用19,179,993千円で、この結果、収支差引0円となりました。

資本的収支では、収入額23,523,067千円から翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額326,195千円を除くと、当年度の収入が23,196,872千円、これに対する支出額は30,734,780千円であり、収支差引7,537,908千円の不足額は、内部留保資金などで補てんしました。

以下のグラフは下水道事業の決算状況を性質別に示したものです。

